

# 資料館だより

## 発行所

高松宮記念ハンセン病資料館  
 〒189 東京都東村山市青葉町4-1-13  
 電話 0423-96-2909  
 FAX 0423-96-2981  
 郵便振込 00130-7-764159  
 高松宮記念ハンセン病資料館運営協力会

## 予防法見直し検討会 全患協の要望を聴く

らい学会、所長連盟、全患協、全医労など、関係諸団体の「らい予防法」に対する見解が出揃い、ハンセン病療養所が所在する各自治体から、国への意見書が次々と出される中で、厚生省は5月にハンセン病予防事業調査検討委員会の中で報告を受け、直ちに「らい予防法見直し検討会」を発足させました。

第一回検討会は7月6日厚生省で開かれ、今回の第二回検討会はハンセン病の歴史と実態を知るため、全患協の意見を聞くことと資料館を見ることを目的に、8月10日高松宮記念ハンセン病資料館で開催されました。

検討会からは委員十三人（一人欠席）と厚生省エイズ結核感染症課の岩尾課長ほか事務関係者など十数人

が出席しました。一行は13時30分に到着して全生園を視察、14時25分から15時45分までは全患協予防法対応委員会十七人（本部と各支部長）と意見交換、その後16時30分まで資料館を見学しました。

全患協との会合では始めに検討会大谷座長の開会挨拶



挨拶があり、続いて全患協高瀬会長より「このような会合をセットして下さったことに感謝する」との挨拶がありました。

次いで全患協が予防法改廃にあたって基本要  
求として九項目と、  
優生保護法問題（らい  
に関する規定の削除）  
について、各委員がそ  
れぞれ分担して説明及  
び要請を行いました。  
その後若干質疑応答が  
ありましたが、今回は  
全患協の要望を聞くに  
とどまりました。

- その後資料館の見学となりましたが、各委員は平沢運営委員の説明を聞きながら、展示品を熱心に眺めておりました。
- いずれにしろ療養所の内  
外から注目されている「ら  
い予防法」問題について検  
討会各委員と厚生省の賢明  
なるご判断とご活躍が期待  
されております。
- らい予防法見直し  
検討会 メンバー
- ▼座長、藤楓協会理事長・大谷藤郎▼前東京都副知事・金平輝子▼元保健医療局長・北川定謙▼日本医師会・小池棋一郎▼年金福祉事業団・幸田正孝▼全患協会長・高瀬重二郎▼国税庁長官・寺村信行▼前日本らい学会会長・中島弘▼大東文化大学教授・中谷謹子▼邑久光明園長・牧野正直▼毎日新聞・宮武豪▼所長連盟会長・村上国男▼名古屋大学法学部教授・森島昭夫▼作家・吉永みち子

# 資料館で第2回 精神障害者との交流会

昨年7月10日、資料館主催による精神・難病団体との交流会が全生園公会堂で開かれ、九団体、50人が参加しました。今年も「生きる尊厳を求めて」をテーマに、第二回精神障害者との交流会が8月6日13時30

分より16時まで、資料館研修室で開催されました。

交流会は平沢運営委員の司会で始めに大谷資料館長の挨拶があり、つづいて「らい予防法問題をめぐって」神崎全患協事務局長「精神障害者運動について」精神障害者団体代表「東村山けやき会の現状」東村山精神障害者を守る会代表「東村山身患連運動について」関口身患連代表「全生園入園者自治会の活動」森元自治会代表のそれぞれ生々しい活動報告がありました。

その後懇談に入り、参加者全員が自己紹介を含めて発言し、お互いが抱えている

悩みや要望などを率直に語り合い、和気藹藹のうちに閉会しました。

## 入館者二万人目 駿河の婦長さん

入館者二万人目の記念として成田運営委員長より記念の書籍類を受け取った新井婦長は「一度は資料館へ見に来ようと思っていたの

ですが、今日は本当に運が良かったですね。頂いた本はゆつくり読ませてください」と話してくれました。

なお、8月末までの入館者総数は二万七四九人で、そのうち団体系来館者数は、九二〇三人となり、全体の四四%を示しております。

### 八病特別展示室

資料館ではこの度取復室を利用して、ハンセン病特別展示室を設置しました。

この展示室にはプロミン治療以前の典型的な写真二十点をはじめ、書籍、薬品、スライド写真などもあります。関係者以外は見られません。



## 第19回夏期大学 資料館見学交流会も

第19回ハンセン病医学夏期大学講座が8月21日より25日まで多磨全生園研修棟で開催されました。参加者は国際医療福祉大学、岐阜大学など六大学と十一カ所の看護学校、ハンセン病療養所八園の医師、婦長、看護婦、作業療法士、検査技士など四二人でした。受講生は二十人の講師から、病理、臨床、末梢神経

25日午前中は研修棟で交流会をもち、自治会中央委



映画制作

# 生きぬいた 証しを後世に

二十五年前、人道的な立場から熊本・竜田寮児童の通学拒否事件を正面から取り上げ制作された映画『あつい壁』の中山節夫監督から「ハンセン病に関する文献や各園自治会から出された歴史的な記念誌は沢山あるが、映像的なものはない。今予防法問題がクローズアップされているが、この機会にハンセン病の歴史や記録を映像で残すため映画を

制作したい」との話があったのは7月初旬でした。資料館運営委員会では早速協議しましたが、その結果「趣旨には大賛成だが四千万円の制作費をどうするか」で難行。その後藤楓協会、厚生省関係者にも相談をしましたが「平成7年度予算はどこでも提出済で無理」とのこと、予算面の見通しは全て来年度以降となりました。

人間を人間として扱わない差別に立腹している。でんかん」という病気であるが故に、これまでいろいろな差別を受けてきた。学校でも職場でも病気のことをかくしていても、発作が起るとバレてしまう。そうすると多くの方は次第に自分を避けて

ゆく。現在も就労の問題でこの病気のため多くの差別を受けているが、私以上に差別視された方々や、この病気により亡くなられた方々のことを思うと涙が出てくる。

## 病気の差別に 立腹している

その後、藤楓協会を通じて日本船舶振興会へ資金援助の申請はしておりますが、これが幸い来年度認められるとしても、後は三分の一の負担金をどうするか、の問題が残されております。この件については全患協へも要請しており、「一般へカンプを呼びかけたら」との声も出ております。いずれにせよ、終焉間近かといわれる日本のハンセン病の歴史、先駆者や患者たちの生きぬいた証を残すため「ぜひとも一日も早く映画を制作したい」と、中

誰も病気になりたくて病気になるのではない。病院に行きたくて行く人などいないのだ！好きでこの病気になった人などいるものか！今もハンセン病以外の多くの病気で差別されている人々がいるが、一日も早く差別撤廃されるよう心から望んでいる。

匿名 32歳 男性

山監督と関係者は意欲を燃やしております。

### 資料館で テレホンカード

資料館ではこの度、二種類のテレホンカードを作成しました。一つはお馴染みの資料館前面（ロータリー）と、二階展示コーナー雑居部屋の二枚をセットしたもので、六〇〇円、もう一つは資料館前面（ロータリー）

一枚だけのもの八〇〇円で、いずれも五〇度ものです。

テレホンカードの作成については開館当初から話がありましたが、種々の都合で延々になり、ようやく今回発行となったものです。どうぞご利用下さい。

### 全医労が請願活動

ハンセン病療養所の職員として患者にもっとも身近な存在である全医労では基本的な人権を侵害する「らい予防法」を廃止し、国立療養所を存続させ、医療、生活などの法的措置を主眼とした請願署名を検討している。

テレホンカード  
高松宮記念  
ハンセン病  
資料館



2枚セット  
カバー付 ¥1,600  
1枚もの  
袋入り ¥ 800

来館者の声

資料館のPRを!

●無職 73才 男性

古い時代の資料に心打たれました。今更のように厳しい歴史を振り返ります。残りの人生に少しでも明る

さが増すことを心から祈ります。是非見たいと念願していましたので感動いたしました。

●主婦 69才 女性

マリアの宣教師フランシスコ修道会の会長、御苦難の修道女マリー・ヘレン・ド・シャポテンは日本の救らい事業についての相談を受け、直ちに快諾した。

まだ日本が電気がない時代に20〜30代の若い修道女を五人、海路はるばる四十日余りかけて日本に送った。五人のシスターたちは、  
◎シスター・マリー・コロンバ 修道院長、26才、フ

今まで自分が思っていた以上に大変きびしい生活を

されてきたことがよくわかった。多くの人に伝え、見て頂きたい。

●学生 22才 女性

一般社会から隔離された想像もできないような生活の中でも、自分たちの楽しみを見つけていたように思

ランス人、二十年後、故国に帰り、帰天。

◎シスター・マリー・ペータ 副修道院長、25才、カ

⑤先駆者  
マリアの宣教師  
五人の修道女  
一八九八一

ナダ人、一九六〇年四月十九日、琵琶崎で帰天。

◎シスター・マリー・トリフィン 25才、フランス人

●その他 24才 女性

今まで病名しか知らなかったが、ここに来て状況を

知った。こういう資料館をもっと若い人達に見てもらって、障害のある人達のことを考えてほしいと思う。

●会社員 44才 男性

一年後支那(中国)に派遣。◎シスター・マリー・ビュルテール 25才、フランス人

◎シスター・マリー・アンニク 30才、フランス人 52才で帰天。

この修道会の精神は、キリストと聖フランシスコに

習い、最も貧しい人、苦し

●看護婦 59才 女性

四十年近く前に看護学生として全生園を見学し、昭和55年よりこの近くの病院

に勤めていたので…三多摩の仲間という新聞で昨年貴館が紹介されていたので一度はと思つて参りました。

補助員ではリハビリ中の

む人、悩む人、偏見により疎外されている人々、そして危険な地域、遠隔の地方にも優先的にお手伝いの手を差し伸べることをモットーとしている。

修道女たちが熊本に到着した日は、一八九八(明治三一年)十月十九日で、その後コル神父とともに待

労病院で献身的に勤めた。

この資料館のあることをもつと地域の人にアピールして、多くの人に見てもらい、ハンセン病以外の偏見を解くことにも役立ててほしいと思います。

●歯科衛生士 43才 女性

差別されていた病氣(砂の器)とは知っていたが、どういふことなのか全然知りませんでした。こういう記念館ができて世に問えるようになれたという事で、ずいぶん偏見もなくなりすよ。若い世代は何も知りません。有難うございました。今度はゆつくり家族をつれてきます。

◎あながき

記録的な猛暑の夏も去り、さわやかな秋となった。歩くことと口を動かすことは健康のもとと言う。

日本は長寿世界一となり、65才以上が国民全体の十数%といわれるがハンセン病療養所は平均年齢が70才となり、65才以上は七〇%を越えている。ポケ防止のためにもカラオケやゲートボール愛好者は頑張つてほしい。



(修)